



世界一幸せなまちを目指して
佐川町



Cover's Story

佐川町立佐川地質館

高知県の地質・地形から地球の生い立ちまで、
存分に学習できる博物館。

入口では迫力満点のティラノサウルスが
来館者を出迎える。

県内で発掘されたアンモナイトや
珍しい化石のコレクションが展示され、

日本や四国の地質について、

子どもから大人まで、

楽しく学ぶことができる。

地質館

— 佐川町 —



Contents

- 02 首長は語る
世界一幸せなまちを目指して
堀見和道 佐川町長
- 07 おらんくの保健事業 田野町
生涯を通じて幸せを感じてもらえる
まちを目指す
ーコロナ完全終息に向け、今を乗り越えがんばろうー
- 11 元気散策! ーこのまちからの笑顔だよりー 香美市
- 14 なでしこの会
会報編集委員会
オーテピア高知図書館・高知県立大学連携企画(書籍紹介)
- 15 こくほ随想 国民健康保険の主体性を高める条件
- 17 コーヒーブレイク
「昨年を振り返って」南国市／「巣立つ子へ」大月町
- 19 黒い靴 No.281 高知市保健所
ピアサポーターと協働した
精神障害者の地域移行支援の取り組み
- 21 KDB ウォーク
第3回 健診・医療・介護データを活用しよう!
- 25 国保連合会 2月通常総会
- 26 就任のごあいさつ
- 27 Topics お知らせ／NEW FACE
- 31 国保連合会事務分担
- 33 国保連合会各室課事業年間予定表
- 35 国保連合会事務局組織図
- 36 編集後記

TOSA国保だよりは
本会ホームページからも
ご覧いただけます。

<http://www.kochi-kokuhoren.or.jp>

TOSA国保だより 検索



世界一幸せなまちを

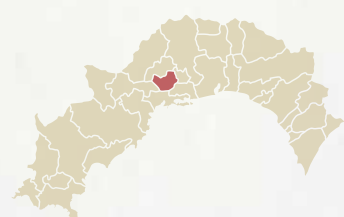
目指して

首長は語る

No.94

佐川町長
堀見和道

「文教の町」、佐川町。
県中心部から西に約30km、
四国山脈の支脈に抱かれた
盆地のまちでは、古くから清酒の
醸造が盛んに行われてきました。
地質学的にも多くの化石が発掘され、
世界的な植物学者・牧野富太郎を
輩出したことでも有名な
歴史と文化の息づくまち、
佐川町を訪ね、
これからのまちづくりについて
堀見町長に伺いました。



首長は語る

No.94 佐川町長 堀見和道

(聞き手 国保連合会江口事務局長)

町民の保健福祉の向上に努める

佐川町の施設整備の状況および保健師等の人数、活動状況等についてお聞かせください。

町立施設の整備状況について、本町には、国保直営の町立高北国民健康保険病院、診療所（黒岩、尾川）2カ所、介護保険関係施設とし

て、高北病院が管理運営している、介護老人保健施設「希望」、デイサービスセンター「斗賀野荘」、デイケアセンター「さかわ荘」があります。特定健診・がん検診の「セット健診」、乳幼児健診会場等の保健センターとして

の機能を持つ、健康福祉センターかわせみを設置しています。

また、令和2年度までに、町内5地区全てにあつたかふれあいセンターを設置し、地域福祉の拠点を整備しました。保健師の配置は、令和2年度現在、10名体制となっており、介護・保健・福祉部門を統括する健康福祉課（健康福祉センターかわせみ内）にすべての人員を配置しております。

しかしながら、10名のうち、1名は課長補佐として管理職の業務を行っているほか、2名は産休・育休中となっており、現員7名で、母子保健、障害保健福祉、健康づくりといった基本的な保健師業務のほか、地域

健康パスポート事業を積極的に展開

高知県が策定している「日本の健康長寿県構想」を受けたよさこい健康プラン21など、保健事業への取り組みはいかがでしょうか。

「よさこい健康プラン21」の取り組みとしましては、本町では、高知家健康パス

包括支援センター、子育て世代包括支援センターといった業務に対応しています。また、令和3年度には、子ども家庭総合支援拠点の設置に向けた体制整備のため、新たに1名を採用することにしています。

少子・高齢化、過疎化といった地域社会の変化に伴い、保健師の業務は多様化しています。個別の支援は、より専門性や他機関との調整能力が求められる一方で、介護予防や健康づくりなどは、地域の特色や課題をつかみ、地域住民の力を引き出す力が求められる時代となっております。このため、保健師の人材育成を進め、町民の保健福祉の向上に努めているところです。

ポート事業を積極的に展開しています。

平成30年度より、町独自の取り組みとして「佐川町めざせ健康体クラブ事業」を開始するとともに、獲得ポイントにより町内施設等で使える「さかわハッピー

スマイル券」を発行し、事業を推進しています。

健康パスポートの取得者数は、令和元年度末で1,605人となっています。「週単位・月単位での平均歩数が増加した」「体重を量る習慣ができた」などの声もあり、住民の健康づくりに

さらなる受診率の向上に取り組む

特定健診・特定保健指導への取り組みについてお聞かせください。

平成29年度に特定健康診査実施計画（第3期計画 平成30年度から平成35年度）を策定し、関係機関と連携して、受診率向上に向け、取り組みを進めてきました。その結果、策定時の受診率は、39・1%でしたが、平成30年度は、3・5%アップの42・

6%、令和元年度は、42・3%と2年続けて42%台の受診率を継続することができました。

令和2年度からは、医師からの受診勧奨依頼を町外の医療機関へ拡大、また、みなし健診情報提供事業の対象医療機関も町外の医療機関へ拡大するなど、コロナ禍での受診勧奨に取り組んでいましたが、受診率は伸び悩んでいる状況です。このため、令和3年度からは、国保連共同事業を活用した、AIによる特定健診受診率向上対策支援事業への委託、かかりつけ医での個別健診等の医療機関の協力、集団健診での時間を区切った予約等、引き続き受

診率の向上に取り組んでいく予定としています。

一方、特定保健指導は、平成29年度の策定時は、終了率10・6%でしたが、平成30年11月のセット健診当日より、健診結果説明会の事前予約を行ったところ、平成30年度は、前年度より4・7%アップの15・3%となりました。

令和元年度からは、さらに利用者数を増やし、同じ管理栄養士による保健指導を継続するため、個別契約を締結するとともに、セット健診初回時から健診結果説明会の事前予約を行うこととしました。その結果、前年度より13・4%アップの28・7%と、2年続けて目標値を達成することができま

したので、令和2年度以降も引き続き、同様の取り組み

移住してみたいと思うまちを創っていく

人口減少・少子化への対策についてはどのようなことを行っていますか。

本町の出生者数は、ここ数年、年間60人前後で推移しています。町内には公立2カ所、私立5カ所の保育所があり、延長保育や乳児保育、一時保育、障がい児保育など、保護者のニーズに合わせた保育サービスを実施するとともに、各保育所が地域との交流を積極的に行っており、地域全体で子どもを育む環境が整っています。

また、妊娠時期から保健師が関わる子育て世代包括支援センターや、主に保育所等に通っていない親子の交流・相談場所として、子育て支援センターを健康福祉センターに開設しており、子育てに悩む方のワンストップ窓口となっています。子どもの医療費の助成に

みを実施しています。

については、通院・入院ともに中学校卒業まで無料化しています。

人口減少への対策としては、こうち出会いサポートセンターが行っているマッチングシステムへの初回登録費用の助成や、結婚に伴う引っ越し費用等を助成する新婚生活応援事業を行っています。また、不妊治療費や不育症治療費の助成も行っています。

本町では平成30年3月に「子育てしやすいまち」宣言を行っています。少子化への対策は、子育て支援策だけではなく、まち全体の魅力を磨き上げることが大事だと思います。本町に生まれた子どもたちが、仮に本町を離れてもまた戻ってきたいと思うまち、県外の方が本町に興味を抱き、移住してみたいと思うまちを町民みんなで創っていききたいと思います。



高齢者が「生きがい」を持って活動できる環境づくりを進める



高齢化対策はいかがですか。

高齢者人口は、令和3年2月末現在で4,966人、高齢化率は39.7%となっています。認知症に関する相談は年々、増加しており、関係機関と連携を図りながら医療や介護保険、権利擁護の制度につなぐ等の相談対応を行っています。

認知症に対する地域の理解促進の取り組みとして、認知症サポーター養成講座を行うとともに、認知症ケ

アパスを作成し、あったかふれあいセンター等で正しい知識の普及啓発を行っています。また、町独自の取り組みとして、高齢者の見守りと合わせて行方不明となった場合でも搜索活動迅速に対応できるようにするため、申請によって対象者の情報を事前に登録し、関係機関と情報共有を行う「さかわSOSネットワーク事業」を行っています。

が増えています。高齢者を日ごろから見守っていくためには、地域のつながりが大切です。町内には、民生委員のほか、地域で活動している団体・組織やボランティアの方がたくさんいますし、今後各地区に整備した、あったかふれあいセンターや集落活動センターを中心にして、高齢者が仕事やボランティアなど「生きがい」を持って活動できるような環境づくりを進めていきます。

住民の介護予防の取り組みにより介護保険料の減額を実現

介護保険の状況はいかがですか。

令和3年2月時点で、介護保険の第1号被保険者数は4,944人で、要支援・要介護認定者数は1,007人となっています。そのうち居宅介護サービスの受給者は526人、地域密着型サービスは200人、施設介護サービスは156人となっています。

高齢化が進む中で、近年は、要介護認定者及びサービス受給者はほぼ横ばいとなっており、第7期介護保険事業計画期間（平成30年度～令和2年度）の介護給付費について、各年度とも計画値より実績が下回る結果となりました。

こうした取り組みの効果もあり、第8期（令和3年度～令和5年度）における第1号被保険者の介護保険料は、基準額ベースで前期

から200円の減額となる月額5,800円に決定しました。

令和2年8月には、高齢者だけでなく障害者も利用できる共生型の地域密着型施設も整備されました。引

特定健診の受診率向上・特定保健指導利用者の増加を図っていく

国保における問題点と課題についてお聞かせください。

令和3年2月末現在、人口に対する国保の加入率は、24.3%、国保加入者のうち53.2%が65歳から74歳となっており、前期高齢者の占める割合が高くなっています。

総医療費、一人あたりの医療費につきましては、年々増加しており、国保特別会計約19億円のうち、給付費の占める割合が約4分の3となっておりです。特に、入院による医療費の伸び率の増加が大きく、平成29年度から令和元年度まで毎年

が約7割と高くなっている状況です。

疾病別での医療費をみると、人工透析患者数が年々増加しています。また、約半数が糖尿病を有している状況となっています。糖尿病の1件あたりの費用額につきましても、高知県内で上位となっており、（令和元年度、男性は1位）本町におきましても、令和元年度より高知県糖尿病性腎症重症化予防プログラムに基づき、委託から直営に切り替えて事業を実施することで、取り組みを強化しています。

また、特定健診未受診者の一人当たりの医療費も高くなっています。このような理由により、特定健診の受診率の向上および特定保

健指導利用者の増加を図る取り組みが最優先の課題だ

と考えています。

「チームさかわーまじめにおもしろくー」

佐川町での特色ある取り組みや地域振興事業、町のPRなどについてお聞かせください。

現在、佐川町総合計画に基づいた町づくりを進めています。もっと良い町にしたいためには、行政が計画的にしっかりと施策を実行していく部分と住民の皆さんも能動的に町のことに関わっていただくことの両面が必要だと考えています。それがまさに「チームさかわーまじめに おもしろくー」の名称の中に込められています。行政側は総合計画に基づいて取り組んでおりますが、住民の皆さん向けには、別冊版「みんなで作る総合計画」の中に25のアクションを示し、町のことに参画する指針となるよう作成しております。この3月末で中間年の5年間となるため、総括として「チーム佐川新聞」を作成しています。

隊の卒業後に、小さく行う林業のモデルケースとして全国的に注目され、林野庁をはじめ、民間企業からも評価されています。

さらに、林業の出口として、木材加工の独自化や、その他農業等も含めた産業振興の新しい拠点としての「道の駅」を2年後にはオープンする予定で、全国に向

運動で汗をかいて、心身共にリフレッシュ

堀見町長ご自身が健康に対して普段から気を付けていることはありますか。

愛犬2匹の散歩が日課です。また、ジョギングを習慣にしており、週に約3回、1日に7～10km、週末は13～15kmほど走ります。斗賀野、黒岩、加茂、尾川の4地区に気

効率的な医療費分析や保健事業の提案等の支援を

今後、国保連合会に望む事業等ありましたらお聞かせください。

国保連合会には、保健事業実施計画（データヘルス計画）をはじめ、多大なご指導ご協力をいただき感謝

しております。

今後とも、KDBシステムを使用した効率的な医療費分析、保健事業の提案等につきまして、ご協力いただきますようお願いします。



チーム佐川新聞



酒道ロード劇場



青山文庫庫舎



牧野富太郎ふるさと館

生涯を通じて幸せを感じてもらえるまちを目指す —コロナ完全終息に向け、今を乗り越えがんばろう—



Vol.95
田 野 町

眼下に田野の町並みと太平洋を望む「大野台地」では、稲の他にナスやオクラ、ジャガイモなど、さまざまな農産物を栽培。奥に見える岬は羽根岬。

おらんく ORANKU NO HOKENJIGYO の 保健事業

コンパクトで
住みやすいまち

田野町は、高知市から東へ55キロメートル。奈半利川西岸河口に位置し、南は土佐湾に面し、気候は温暖で降雪はほとんどなく、澄んだ空と緑の自然環境に恵まれています。町の大きさは東西2.2キロメートル、南北4キロメートル、総面積は6.53平方キロメートルと、四国で一番小さな町です。

町の中心部に、スーパーや医療機関、教育機関や公共機関が集約しており、コンパクトで住みやすい、田舎ならではの「暮らしやすさ」が自



田野町役場 保健福祉課

主幹 平瀬大祐

総面積 6.53km²
人口 2,605人
国保被保険者数 753人
高齢化率 41.7%
(令和3年2月末現在)



田野町が分譲を実施している「上ノ岡団地」。多くの子育て世帯が居住している



慢です。

ナスなどの施設園芸を主体とする農業が主な産業で、豊かな自然環境を活かした地酒の醸造等も行われています。また、女性の産業別就業人口は、医療・福祉が最も多くなっています。

観光面では、ライオン宰相「濱口雄幸」、幕末の志士「清岡道之助」などの偉人を輩出していることから、濱口雄幸旧邸、清岡道之助旧邸、岡御殿、二十三士公園等の史跡、名所があります。

山、川、海の距離が近いという豊かな自然環境を活かして、近年では海水を原料に太陽と風の力だけで作る「完全天日塩」や、大野台地のジャガイモなどが新たな特産品となっています。

特定健診の 受診率を上げよ

田野町では例年、6月頃と10月頃に、2〜3日程度、特定健診の集団健診を実施しており、併せて肺がん検診、大腸がん検診、胃がん検診、前立腺がん検診等の各種がん検診を行っています。また、多くの方に特定健診を受診いただけるよう、中芸

広域連合で実施する他町村の集団健診会場でも受診できるようにしています。

特定健診受診率については、過去数年低調な状況が続いており、平成21年度から平成24年度においては10%台でした。平成25年度から平成28年度については、20%台後半まで受診率が上がりましたが、平成28年度の28.2%は県下で最下位でした。平成29年度からは、電話での受診勧奨や、生活習慣病予防に関するパンフレットによる啓発等に、より力を入れて取り組みました。その結果、平成29年度の受診率は37.1%、平成30年度は42.1%、令和元年度は44.7%と、受診率は増加傾向にあり、取り組みによる効果が表れています。

また、集団健診実施後、受診者を対象に健診結果の返却と併せて、健診結果説明会を開催しています。説明会では、保健師等による健診結果の見方の解説や、管理栄養士による生活習慣病予防のための栄養の講義、さらに健康運動指導士による簡単な運動実技等を行っており、参加者からは「今までの食生活を改善しようと思った」「意識的に身体を動かしたいと思った」といった声が聞

かれ、栄養の意識や運動の意識の変化につながっています。

特定健診は生活習慣病の早期発見・予防につながることから、引き続き受診率の向上を目指して、関係機関と協力しながら取り組んでいきます。

子育て支援拠点・地域生活 支援拠点「遊分舎」 ―「おたがいさま」を育む―

母子保健、障がい保健福祉、健康増進に関することは中芸5町村（奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村）で広域的に取り組んでいます。

平成21年度に中芸広域連合保健福祉課が設置され、広域行政で取り組み始めて10年が経過しました。一つの町や村だけでは、取り組み切れな課題にも5町村の保健師や栄養士、事務担当がチームで広域的に取り組むを進めています。

現在、地域では、過疎化や核家族化、少子高齢化が進行する中で、子どもや障がい者だけでなく、大人も含めて体験や経験が少なくなり、人との交流や学びあいの機会が限定されています。これまでの生活体験を



田野町完全天日塩製塩体験施設



二十三士首領、清岡道之助旧邸。
令和3年4月からリニューアルオープン



江戸時代、藩主の宿泊所として建てられた
貴重な建造物「岡御殿」



小学生とひまわりの種を植える「田野ちゃありーダース」



食改さん。高校生に郷土料理を紹介する様子



年度別特定健診受診率



健診結果説明会の様子

通して獲得してきたことや、コミュニケーション力にも影響するなど、これまでにあった「おたがいさま」の関係が弱くなる（地域力の低下）といった課題も見られます。

そこで、平成29年に中芸5町村の子育て支援拠点施設の役割と障がい者地域生活支援拠点の役割を持った施設として、「遊分舎^{あそぶんしゃ}」を民家を借り上げて設置しました。

子育て教室で学んだことを生活に近い場で体験したり、障がい者等が仲間と一緒に生活体験できるほか、日中活動を通して一人一人が気付きを得たり、成長していくことができる場になっていきます。地域の方にも参加してもらうことで、住民の方の力や思いも知る機会につながっています。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の取り組みの中で活動の制限も多くなってしまうことが、改めて人とのつながりの大切さや交流できることの楽しさを感じました。

この地域だからできることを、参加してくれる地域の方ともしっかりとつながりながら、取り組みを発展させていけたらいいと感じています。

田野町食生活改善推進協議会 ―「食改さん」の活動―

田野町食生活改善推進協議会は、地域住民の食生活改善や健康増進のための実践活動に長年、取り組んでいます。これまで、加工食品の塩分測定一覧表作成による高血圧予防の取り組みや、糖尿病予防や高脂血症予防を目的として、地元食材を利用した減塩料理を地域に伝える活動を行うなど、その内容は多岐にわたっており、「食改さん」の愛称で親しまれています。

また、子どもの頃から食の大切さを学んでもらおうと、毎年、幼稚園児や小学生、中学生との調理実習を実施しています。近年では町内にあがる県立高校にもお邪魔し、食育に関する講座を行ったり、高校生と一緒に学習に参加したりと、精力的に活動しています。

子どもから大人、お年寄りまで、食に関することは健康増進に大切なことだと分かっているにもかかわらず、なかなか自分の食生活を見つめ直したり、改善したりすることは難しいものです。そういった中で、地域に密着しながら、無理のない食生活改

善の活動を行う「食改さん」は大変貴重な存在となっています。

田野町インフルエンザワクチン接種費用助成事業 ―子どもたちの健康増進―

田野町の子どもの健康増進に係る取り組みの一つとして、令和元年度より6歳（小学校就学前）までの子どもに対してインフルエンザワクチン接種にかかる費用の全額助成事業を実施しています。これは子どものインフルエンザ感染による重症化予防を図るとともに、経済的負担を軽減することで接種率を高め、町民の健康増進や子育ての推進に寄与することを目的としています。

事業初年度である令和元年度は対象者約120名のうち71名が接種しました（接種率60%）。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響からか初年度よりは接種率が下がりましたが、それでも対象者約113名のうち63名が接種しました（接種率56%）。

―田野ちゃありーダース―

平成30年5月、生活支援体制整備

事業の協議体として地域のおばちゃんたちが集まり、田野町について話し合いました。地域のつながりが少なくなり、子どもたちとの交流が少なくなってきた町をみんなで応援しようと、土佐弁の「ーちゃあ」と地元の田野中学校で作られているお茶の「茶^{ちや}」をかけ合わせて「田野ちゃありーダース」と命名し、いろいろな取り組みを行ってきました。地区の盆踊りに参加したり、田野小学校の子どもたちとは、ヒマワリやチューリップなどを一緒に育てたりしました。また、防災学習もしながら、収穫したヒマワリの種を福島県へ送って復興支援に参加し、チューリップは卒業式でおばちゃんたちから6年生にプレゼントしました。

今年度は新型コロナウイルスの影響により活動が制限されましたが、何かできることはないかと考え、小学校の子どもたちに手作りのマスクを贈りました。マスクには「コロナに負けずにがんばろう」などのメッセージが添えられ、子どもたちからは感謝のお手紙が渡されました。このように地域のつながりを大事にしている「田野ちゃありーダース」の取り組みが町全体に広がり、田野町が元気になることを願っています。



「田野ちゃありーダース」が手作りのマスク。一つ一つにエールが添えられている



食改さん。幼稚園児と調理実習する様子



遊分舎。柚子しばり体験



高知県が全国一の生産量を誇るシシトウは、切らずにそのまま食べられるので、焼いてよし、炒めてよし、揚げてもよし、と幅広い料理で楽しむことができる



取材した日は、畑でみずみずしいブロッコリーが出迎えてくれた

野球選手から農家へ転身
農家になる以前、菊地さんは国内外の社会人野球チームで、内野手として活躍していた元野球選手だ。生まれも育ちも神奈川県横浜市、高校卒業後に渡米し、2014年までアメリカで、その後、2019年までは国内のチーム

初めての植え付け後、収穫までの期間、他の農家にアルバイトに行き、収穫の手伝いなどをしながら、「植え付けの何カ月前には、こういった肥料をまくといいで」「土づくりはこういうのがいいよ」など、先輩農家の方から勉強した。さらに、植え付けのタイミングなどは、農業振興センターや営

農のちに相談し、試行錯誤の中で、スタートした。やりがいはいは「自分が作った野菜を誰かが食べてくれること」

「自分の子どもに食わせられないものは、作つたらいかん！」
今年でも交流がある先輩農家の方から教わったことの二つ、「自分の子どもに食わせられないものは、作つたらいかん」は、菊地さんのこだわりとなっている。

一方で、消毒を頻回行った野菜は「見た目にはいいもの」ができ、市場で高い値が付くことも多々ある。菊地さんも農業は使うが、濃度や頻度が

菊地さんは現在、露地栽培でシシトウをメインで作っている。4月から5月に苗を植え付け、暖かい年だと12月頃まで収穫する。シシトウの合間には、山の中で原木シイタケの他、12月から3月頃まではブロッコリーを作っている。ブロッコリーは少量のため、市場には出さず、野菜専門の個人向け販売サイトに出荷している。その他、季節ごとに大根、キウリ、オクラ、ゴーヤなども作っている。

ここでシシトウを作る
農業1年目はネギを作っていた菊地さん。1年目は野球をやりながら、兼業で農業を始めた。しかし、出荷準備の皮むきで目の痛みや手の腫れなどの症状が出て、ネギは体質に合わず、栽培を断念。地元の人たちに相談し、土地柄から「シシトウが向いている」とアドバイスを受け、農業2年目からはシシトウを作り始めた。現在、シシトウは3年目になる。

農の魅力を、「自分のペースでできること」と菊地さん。また、息抜きにスポーツ選手のYouTube動画を観ていると、プロのアスリートが食事や公開しており、冷蔵庫にシシトウのパックが入っているのを見つけた。「もしかしたら、自分が作ったものかもしれないと思うと、すごく嬉しい」と語ってくれた。

「自分の子どもに食わせられないものは、作つたらいかん！」
今年でも交流がある先輩農家の方から教わったことの二つ、「自分の子どもに食わせられないものは、作つたらいかん」は、菊地さんのこだわりとなっている。

自然相手なので、どれだけ気を付けても、台無しになることもあると菊地さん
肥料をまいたり、収穫など人手のいる作業には奥さまのおじいさんも手伝ってくれている
シシトウ(=獅子唐辛子)は、βカロテン、ビタミンC、カリウムなどを豊富に含む風味豊かな緑黄色野菜。中南米原産でヨーロッパに渡った後、世界に広がった

菊地さんは現在、露地栽培でシシトウをメインで作っている。4月から5月に苗を植え付け、暖かい年だと12月頃まで収穫する。シシトウの合間には、山の中で原木シイタケの他、12月から3月頃まではブロッコリーを作っている。ブロッコリーは少量のため、市場には出さず、野菜専門の個人向け販売サイトに出荷している。その他、季節ごとに大根、キウリ、オクラ、ゴーヤなども作っている。

ここでシシトウを作る
農業1年目はネギを作っていた菊地さん。1年目は野球をやりながら、兼業で農業を始めた。しかし、出荷準備の皮むきで目の痛みや手の腫れなどの症状が出て、ネギは体質に合わず、栽培を断念。地元の人たちに相談し、土地柄から「シシトウが向いている」とアドバイスを受け、農業2年目からはシシトウを作り始めた。現在、シシトウは3年目になる。

農の魅力を、「自分のペースでできること」と菊地さん。また、息抜きにスポーツ選手のYouTube動画を観ていると、プロのアスリートが食事や公開しており、冷蔵庫にシシトウのパックが入っているのを見つけた。「もしかしたら、自分が作ったものかもしれないと思うと、すごく嬉しい」と語ってくれた。

「自分の子どもに食わせられないものは、作つたらいかん！」
今年でも交流がある先輩農家の方から教わったことの二つ、「自分の子どもに食わせられないものは、作つたらいかん」は、菊地さんのこだわりとなっている。

自然相手なので、どれだけ気を付けても、台無しになることもあると菊地さん
肥料をまいたり、収穫など人手のいる作業には奥さまのおじいさんも手伝ってくれている
シシトウ(=獅子唐辛子)は、βカロテン、ビタミンC、カリウムなどを豊富に含む風味豊かな緑黄色野菜。中南米原産でヨーロッパに渡った後、世界に広がった



香美市、シシトウ農家 菊地雄太さん



県北東部の山間に位置し、物部川、べふ峡、龍河洞など美しく豊かな自然に育まれてきた香美市。「輝き・やすらぎ・賑わいをみんなで築くまちづくり」を基本理念に、進化する自然共生文化都市香美市であたたかい笑顔に会いましょう。

安心・新鮮！ 地産地消から全国へ 「香美市のシシトウ」

元気散策！
このまちからの笑顔だより
香美市



「人の温かさ」は 都会では感じなかった いいところ

だったようだ。年によって苗の強さ、天候や虫の発生など、条件が異なる。暖かい年では6月頃から虫が出始め、その分、農薬をまく期間が長引くが、農薬をまくした後、24時間は収穫ができなため、先に収穫する。そういった段取りも年により異なるのが、自然相手ならではの難しさだ。

また、約20年間のキャリアアを持つ前述の先輩農家の方であつても、「これまでと同じ年は一度もない。天候との闘い」とのこと。その方は、ハウス栽培もしているので、毎日、天



収穫したシシトウ。1箱に1パック50gが30パック入る。多い日には一日に30箱〜40箱を出荷する

ここでも新型コロナの影響が見られる

市場の値段の変動も難しい点だ。1箱（15kg）に平均3千円の値が付くが、昨年は8千円まで上がった。翌日、張り切つて、総出でパック詰めをして市場に出したところ、付いた値段はなんと10分の1に。これは極端な例だが、それほど、市場の値段の見極めは難しい。

また、売り先が県内外、いずれの市場か、出す量の多寡、市場に出すか農協に出すかによつても値段の傾向は変わってくる。県外行きは新型コロナウィルス感染症の影響により、飲食店の需要の落ち込みで値段が下がったりと、ここでも新型コロナの影響が出ている。

香美市の魅力、好きなどころ

「いい意味で田舎ですよ」と菊地さん。横浜市の都会生活では、近所の人ともあいさつ以上に話をする機会はほとんどなかった。しかし、ここでは帰宅すると、隣の家の人が居て、「大根、置いちゃくで」と言われて最初は驚いた。そういった「人の温かさ」

は都会では感じなかったいいところで、「子育てをするには、とてもいい環境だと思います」と語ってくれた。

農家の野球チームをつくりたい！

最後にこれからの展望を伺うと、「シシトウについては、まだ3年目なので、今後、①今の露地栽培で面積や本数を増やして、人を雇用する形態もシシトウを作っていく。そのいずれか、もしくは両方やるのかは、これから決めていきたい」と意気込みを語ってくれた。

さらに、「社会人野球は30歳前後で引退して、そのまま残れる会社もあるが、野球が終わったら、放り出されて、何していいかわからん、でも子どももおるし、という知り合いがたくさんいる。でも、農業なら、誰かが段取りすれば、あとは、収穫して出荷する単純作業なので、体力と人手があればできる。農業をする人たちが、社会人野球のチームをつくれたら」と力を込めた。菊地さんの今後ますますの活躍と「地域の新しい受け皿」の創出に期待したい。



☀️ 訪ねた元気人

シシトウ農家
菊地雄太さん



高知県在宅保健活動者
なでしこの会

スローガン

会員の力を結集し
楽しく進めよう地域の健康づくり

会報「なでしこだより」
を発行
会報編集委員会

1月25日、高知県国保連合会会議室において、「会報編集委員会」を開催し、会報「なでしこだより（第40号）」の編集・発行に向け、協議を行いました。

令和3年3月には、会報第40号を発



企画展示で『黒い靴』が紹介されました
オーテピア高知図書館・高知県立大学連携企画
（書籍紹介）



2月17日から4月3日の間、

高知市のオーテピア高知図書館において、オーテピア高知図書館・高知県立大学連携企画（書籍紹介）として、「医療衛生と地域・身体をめぐる50冊―木村哲也の世界を手がかりに―」が開催され、書籍の紹介および冊子が作成されました。

本企画展示では、テーマごとに選出された書籍を紹介（下表

参照）。高知県国保連合会およびなでしこの会発行『黒い靴』が、テーマ「地域医療の中の保健婦／保健師を知るための5冊」の中で紹介されました。なお、『黒い靴』はオーテピアに寄贈されており、貸し出し可能です。（以下、冊子より引用）

『高知県保健師の記録 黒い靴―そこに暮らす住民とともに―』は、昭和60年度から平成23年度に高知県内に駐在、市町村に所属した保健婦／保健師による記録集である。地域特性や多様な健康課題に応じて、しなやかな発想を持った活動が、生きた地域の様子とともに記述されている。各記録のテーマからは、地

医療衛生と地域・身体をめぐる50冊
―木村哲也の世界を手がかりに―

木村哲也の世界を知るための5冊
地域医療のなかの保健婦／保健師を知るための5冊
ハンセン病患者の生活世界を知るための10冊
水俣病患者の生活世界を知るための5冊
統治技法としての医療衛生を知るための10冊
後藤新平を知るための10冊
病めることの歴史を知るための10冊

域に対して保健婦／保健師が込める思いが感じられ、ひとつの見どころである。保健婦／保健師の持つ技術や仕組みを、地域に馴染むように機能させ、活動を展開する様子が綴られている。この記録が年代を重ねて一冊にまとめられていることで、住民の健康づくりに、地域社会で取り組む流れを感じることができ

（紹介者：川本美香氏）
（出展：『医療衛生と地域・身体をめぐる50冊―木村哲也の世界を手がかりに―』飯高伸吾・川本美香・吉川孝）



国民健康保険の 主体性を高める条件

東京大学 未来ビジョン研究センター データヘルス研究ユニット 特任教授

古井 祐司

インセンティブ制度は 始まったばかり

国民皆保険制度の持続的な運営を可能にするには保険者の主体性が重要な要素であり、そのためのインセンティブ制度が始まっている。ご存知のように、2018年度より保険者が市町村から都道府県へ移行したことに伴い、国保運営を支援する目的で国保努力支援制度が導入された。この制度は、保険者が実施する事業を評価し、その結果に応じて年間1,000億円

(2020年度は1,500億円)の予定)を配分する「インセンティブ」の仕組みだ。

インセンティブ制度によって保険者の主体性を高める試みは、政府の「骨太方針2017」に掲げられスタートした。私は政府委員としてこの政策の検討過程に関わってきたが、どのような事業をどのようなやり方で実施すれば効果的な予防・健康づくりや医療費適正化につながるかという知見がない中で、制度を設計する難しさを感じており、国保を支える新たな仕組

市町村の現場で 大切なこと

とはいえ、制度が始まった以上、現場では日々取り組みが進められている。保険者となつた都道府県が市町村の支援を本格的にスタートさせる中、私たちの研究ユニットでは、予防・健康づくりを進める市町村の「データヘルス計画」を6都県の皆さんと共に支援した。この一年で80の区市町村の「データヘルス計画」の中

Writer's Profile

古井 祐司 Yuji Furui



出身地／東京都

東京大学 未来ビジョン研究センターデータヘルス研究ユニット特任教授。自治医科大学客員教授。内閣府経済財政諮問会議専門委員。【略歴】東京大学大学院医学系研究科修了、医学博士(2000年)。専門は予防医学、保健医療政策。2004年東京大学医学部附属病院特任助教授就任(2009年退任)。同年、健康づくり委員会:ヘルスケア・コミッティーを株式会社化し代表取締役就任(2015年退任)。その後、自治医科大学客員教授(現任)等を経て、2018年東京大学政策ビジョン研究センター(現・未来ビジョン研究センター)特任教授就任。30代で過疎地の出前医療に魅せられ、基礎医学から予防医学に転向。産官学連携のもと予防医学研究を進める。

【著書】『健康経営エキスパートアドバイザーテキスト』東京商工会議所編, 2019(監修)『データヘルス計画作成の手引き・改訂版』厚生労働省・健康保険組合連合会編, 2017(総監修)『社員の健康が経営に効く』労働調査会, 2014『図解 ここがポイント! データヘルス』東京法規出版, 2014

身を「標準化ツール」に整理し、意見交換や助言をさせていただいたところ、想像していた以上に市町村の取り組みやその背景に多様性があることや、素晴らしい保健事業の工夫があることを感じた。それと同時に、現場の職員が力を発揮するために必要な条件もわかってきた。

ひとつは、「住民を健康にする」という目的が明確であること。事業をまわすことに一生懸命で、具体的な成果を出すことは2の次になりがちだが、本来のゴールはデータに基づき住民の健康課題を解決することだ。これまで保健事業の実施率を上げることばかりに追い立てられてきたある町では、目的がはっきりしたことで、国保と保健衛生の両部署が共創して、様々な工夫の検討が始まった。

次に、取り組んだ結果が職員にフィードバックされること

も重要だ。事業によって住民の健康状況が改善したり、被保険者に役立ったことがわかると職員のモチベーションは上がる。また、他の市町村と比較することで事業の進捗や結果が客観化されることも有用である。「データヘルス計画」に関する県庁の会議でフィードバックを受けたある市国保の職員からは、「他の自治体と比べて良かった点を保健師達に伝えたい!」といったコメントがあり、結果のフィードバックが現場の主体性にプラスに働く様子がうかがえた。

また、効果的なノウハウを明文化して吸い上げることも現場に役立つ。この一年、6都県の皆さんと私たちが「データヘルス計画」を構造的に整理することによって、保健事業に関する様々な工夫が抽出された。この知見を活用していけば、現場の皆さんが取り組めることは格段に広がってい

く。

こうした現場の知見を「データヘルス計画」を通じて抽出し、蓄積していけば、国としてもそれに連動する評価指標を設定でき、有用なインセンティブ制度に進化させることができる。また、保険者もそれをマイルストーンにして取り組みを進めやすくなるだろう。私たちの研究ユニットとしても、国民健康保険の主体性を高めるために、「データヘルス計画」の標準化や保健事業の実証研究を続けていきたい。

2020年4月から一年間「こくほ随想」の連載を担当したことで、日々の徒然なる自身の取り組みを意識し、研究や政策に関わる活動の本質を考える機会をいただいた。社会保険出版社の皆様へ感謝申し上げます。

記事提供 社会保険出版社



『昨年を振り返って』

● 南国市役所 市民課
主事 藤本 遥

南国市役所市民課国保係の藤本と申します。今年で入庁して2年になり、ようやく余裕を持って仕事ができるようになったと思います。それは、一からたくさんの方の教えでくださった先輩のおかげなので、感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、今回コーヒーブレイクのお話をいただき、何について書こうかと悩みました。そこで、昨年を振り返った時に、私の中の一番のニュースといえば成人を迎えたことだったので、そのことについて書いていこうと思います。

みなさんは20歳になった時、どのような気持ちだったで

しょうか？ 私は「もつと10代でいたいのになあ」と思いました。というのも、「箸が転んでもおかしい時期」というように10代は何をしても楽しかったですし、特別に感じていたからです。

しかし、その頃ハマっていた韓国ドラマの影響で誕生日に韓国のお酒を飲み、「こういう楽しみも増えるのか！」と20歳になったことをすぐに嬉しく思いました。今はなかなか飲み会ができませんが、せっかく高知県で生まれ育ったので、おいしい食べ物とお酒を楽しまたいです。他にも、カヌー、キャンプ、ガラス細工作成など、挑戦したいことがた

たくさんあるので、ワクワクしています。

また、20歳と言えばメインイベントは成人式ですが、今年はコロナウィルスの影響で成人式は中止になりました。私もとても楽しみにしていたので残念でしたが、振袖を着て友人と写真を撮り、たくさんの方にお祝いの言葉をいただいたので、とても良い節目を迎えられました。このよう

くさんあると思いますが、10代の時のようにどんなことでも楽しみながら、仕事も私生活も充実したものになるよう頑張りたいと思います！



『巣立つ子へ』

● 大月町役場 町民福祉課
課長補佐兼保険係長 新谷 貴子

私は、大月町役場保険係の新谷と申します。国保は、奥の深い仕事で、異動して2年目になりますが、今も新しい発見やなるほどと思わされることがたくさんあり、周りの皆さんにたくさん助けられているながら日々仕事をしています。

今回、コーヒーブレイクのお話をいただき、何を書いてよいものか悩みましたが、子どもたちのことを書くことにしました。

私には、夫と2人の子どまがいます。上の娘は現在24歳。2年前に就職し、関西の病院で働いています。下の息子は現在18歳。大学受験も無事合格し、今は残り少ないハイスクール・ライフを楽しんでいます。今回、下の息子の受験に際し、私自身とても悩みま

した。本人には三重県に行きたい学校がある。しかし、親で見れば似た学校は近くにもあり、こんな世の中ですの

で、なるべくなら高知に近い学校に行ってほしい。たびたび息子と話し合いを持ちましたが、なかなか息子の気持ちはゆらぎません。少し私は息子に対して、「親の気も知らんと！」という気持ちで先に働いてしま

い、大人気ないですが息子とケンカをしてしまいました。息子は、今までそんなに親に逆らうような子どもではあり

ませんでした。だから余計に腹が立ったのかもしれない。私の中で、息子の気持ちと

尊重してやりたい気持ちと、少しでも近くにいて、何かあればすぐ対応できる所においてもらいたい気持ちの葛藤がさらに強くなりました。そこで、

そんなある日の夜、娘に今の状況を相談しました。娘は息子が尊敬する「姉」なので、

素直な気持ちを話せるかもしれない！ そう思い、娘に電話をしてもらいました。1、2時間くらいたったところで

ようやく。娘から私に電話が掛かってきました。その話は、息子の気持ちに変化はないと

いうことでした。それを聞きシヨックではありましたが、

続けて、「弟の気持ちを尊重してやってほしい。彼は彼なりに考えた結果その学校を選んだのだ」と。「母ちゃんの

気持ちには十分弟に伝わっている。弟もたくさん迷ってその学校にすることを決めた。私も弟を応援するので、母ちゃんも応援してほしい」。

この言葉で、私の気持ちも少し晴れ、息子を応援しようという気持ちに変わっていき



柏島

精神病床の多い高知市

高知市は平成10年4月、中核市に移行し、同時に保健所を開設しました。令和3年1月1日現在の人口は32万5218人です。高知市には精神病床が多く、平成30年10月1日時点の人口10万人対精神病床数は537・0で、全国平均の約2倍です。

当市では、精神障害者地域移行代表者会議、精神障害者地域移行戦略会議、精神障害者地域移行支援者会議、以上3つの会を設置し、ピアサポーターとともに精神障害者の地域移行に取り組んでいます。今回はその取り組みについてご紹介します。

地域移行とピアサポーター 協働のきっかけ

平成26年の高知県の調査で、高知市には退院可能な状態であるにもかかわらず入院を継続している精神障害者が一定数いることが明らかになりました。この時、地域移行支援の利用実績はほとんどなかったことから、平成27年3月に策定した高知市障害者計画・障害福祉計画に「精神科病院からの退院に向けた支援」を位置付け、地域移行の取り組みを開始しま

した。先進地視察を行うことで、退院可能な方達が退院して地域で当たり前に暮らすことができる高知市にしたいと思うとともに、先進地で活動しているピアサポーターとの出会いから、地域移行を進めていくには、ピアサポーターの存在が重要であることを学び、高知市でもピアサポーターを養成したいと思うようになりました。

高知市ピアサポーターの誕生

高知市で養成しているピアサポーターは、精神障害者で地域移行・地域定着支援を行うサポーターで、平成28年度から



養成を開始しました。私たちはピアサポーターが一般相談支援事業所に雇用され、地域移行・地域定着支援に関わることをめざしています。ピアサポーターは対象の方と同じような体験をしているからこそ、相手に共感でき、専門職による支援とは異なる支援ができると言われています。初めての養成研修は精神科病院職員や地域援助事業者、行政機関職員で構成された実行委員会、研修内容の検討や運営を行いました。2回目以降の養成研修には高知市ピアサポーターも実行委員として参画しています。現在35名が高知市ピアサポーターとして登録しています。

ピアサポーターという専門性

ピアサポーターの主な活動は、院内説明会への参加と入院中からの個別支援です。

対象の方が地域で安心して暮らすためのお手伝いとして、入院中から退院後まで継続して訪問しお話を聞いたり、経験を生かして生活のアドバイスをしたりしています。

院内説明会は入院中の患者さんに自分のやりたいこと等、今後の生活に希望を持つってもらうために行っています。院内



説明会のプログラムはピアサポーターと一緒に内容を考えました。会では相談支援事業所職員から、制度やサービス等について説明し、ピアサポーターからは地域で暮らす仲間として、どんなサービスを使っているか、住まいのこと、お金の管理等の話をします。患者さんからも不安に思っていることや疑問点を話してもらいます。ピアサポーターは自分の症状をどう受けとめ、どう対処するか、薬と上手く付き合っているか、病気との付き合い方を自身の経験をふまえて伝えてくださるので、患者さんからはピアサポーターの話を質問が出ることも多いです。ピアサポーターの語るリカバリー(回復)ストーリーは、支援の対象となる人に希望を与え、自分が精神疾患を患ったという同じような経験からくる困難や苦労、経験を分かち合うことで、信頼関係を築くための、大きな力を持っていると言えます。



ピアサポーターが与えてくれる勇気と希望

ピアサポーターが支援をすることで、職員が引き出せなかった本人の希望や思いが聞かれることがあります。例えば「カラオケに行ってみた」「苦手な時間帯に散歩をしてみたい」等、生きる意欲を引き出すことのできるピアサポーターの専門性を実感しています。他にも「支援者には病気のことを話してくれなかった方が、ピアサポーターには病気のことで話すことができる」という支援者の声を聞くこともあります。

ピアサポーターからは「対象の方が楽しそうにお話ししてくれたので嬉しくなりました」「対象の方のやる気が感じられ、私自身も頑張っていきたいと思いました」等の感想があり、ピアサポーターとしての活動が自身のリカバリーにもつながっていると感じます。

ピアサポーターは私たち保健所職員と一緒に仕事をする仲間です。ピアサポーターにしかできないことがあり、支援をするうえで助けてくれる存在です。また、

誰もが地域で当たり前になる暮らしをめざして 高知市をめざして

ピアサポーターは当事者のロールモデルとなり、希望になっています。

ピアサポーターと一緒に活動することで、私たち職員や支援者の意識が大きく変わりました。保健・医療・福祉等の関係者で協議する場を通し、家族会や当事者を含む関係機関のネットワークも形成され拡大してきています。ピアサポーターをはじめとして同じ目標に向かって共に考えてくれる仲間が増えたことが、今回の取り組みの大きな成果だと思っています。取り組みを始めてから、地域移行・地域定着支援の利用者数は増加しています。今後も関係機関の皆さんやピアサポーターに力を貸していただきながら、誰もが地域で当たり前に暮らすことのできる高知市をめざして、取り組みを続けて行きたいと思っています。





＜集計方法＞

健診受診者の1人当たり医療費

健診受診者の総医療費（BI75 × 10 円）÷ 健診受診者（C75）

健診未受診者の1人当たり医療費

健診未受診者の総医療費（BL75 × 10 円）÷ 健診未受診者（D75 - C75）

例）令和元年度の高知県全体を集計

1人当たり医療費（年）	
健診受診者	健診未受診者
139,971 円	531,569 円

なるほど～



🍷 介護認定者の有病状況を確認しよう

要介護（支援）認定者における、有病割合の大きい疾病や有所見割合の大きい項目を確認し、要介護状態と生活習慣病との関連を把握することができます。

■ 帳票「要介護（支援）者有病状況」を確認

介護認定のデータと医療レセプトの傷病名データを合わせて、介護度別に生活習慣病等の有病状況を確認できます。

ここでは、1号被保険者（65歳以上）と2号被保険者（40～64歳）に分けて集計していますが、その他にも性・年齢階層別に有病状況の割合を経年比較で見える「医療・介護の突合（有病状況）」や、健診情報と筋・骨格系疾患や認知症等の医療レセプト情報を付記して個人単位で確認できる「要介護（支援）者突合状況」などの帳票も活用できます。

要介護（支援）者有病状況										
項目	認定者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	1号被保険者	2号被保険者	計
有状態	154	161	259	216	198	182	1,324			
糖尿病	41	53	79	60	43	45	351			
（西薬）糖尿病合併症	8	8	8	8	8	4	44			
心臓病	112	116	173	106	188	91	847			
脳疾患	48	57	96	79	74	63	485			
がん	16	28	26	24	19	12	132			
精神疾患	39	48	109	97	99	82	524			
筋・骨格疾患	184	128	151	131	99	72	765			
難病	7	11	18	5	5	6	51			
その他	108	117	176	127	114	93	835			
計	475	542	828	659	572	479	3,595			

『KDBウォーク』 国保データベース (KDB)システムを活用しよう！



高知市のみなさん

🍷 第3回 健診・医療・介護データを活用しよう！

第2回では医療費分析について紹介し、医療費の要素分解、疾病別、高額レセプトなど、さまざまな視点からの分析方法をご覧いただきました。

KDB システムでは、健診・医療・介護データを突合して、制度を跨いだ分析が可能です。

第3回は突合されたデータの活用について紹介します。

🍷 特定健診受診有無別の医療費

特定健診受診者と未受診者に分けて1人当たり医療費を比較することができます。未受診者の医療費が高いことが多く、受診勧奨等に活用している保険者もあります。

■ 帳票「地域の全体像の把握」のCSVデータを編集

「地域の全体像の把握」のCSVをダウンロードします。（作成年月は年度累計を選択）

地区単位でCSVをダウンロードすると地区毎の集計も可能です。

地域の全体像の把握														
項目	地区名	作成年月	県計・国計	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命
1	380000 サンプル市	R02年度(1)	国保組合含む											
2	集計単位	平均寿命	平均寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命	健康寿命
3	保険者(地)	80.6	87.8	109.7	109.2	0	0	162	78	48.6	47	29.7	22	
4	同規模	80.3	87	103.4	96.3	506.3	244.7	5.577	2.555	45.8	1.720	30.8	824	
5	国	80.4	86.9	104.6	101.3	0	0	72.865	33.854	46.5	21.564	29.6	11,523	
6	集計単位	80.8	87	100	100	486	255	749.879	373.458	49.8	208.102	27.8	108.120	
7	保険者(地)	492	1,322	37.6	118	1,322	9.0	280	1,322	21.4	39	1,322	48	1,322
8	同規模	12,053	32,265	37.4	3,044	32,265	9.4	6,890	32,265	21.7	879	32,163	2.7	1,498
9	国	183,752	496,822	39	48,120	496,811	9.7	141,373	496,806	28.5	16,437	483,715	3.4	28,605
10	集計単位	1,855,335	5,327,428	36.7	466,782	5,327,306	6.8	1,485,435	5,327,285	27.9	175,207	5,170,044	3.4	302,173
11	保険者(地)	497	1,335	38	118	1,335	9	283	1,335	22	40	1,335	3	49
12	同規模	497	1,335	38	118	1,335	9	283	1,335	22	40	1,335	3	49
13	国	497	1,335	38	118	1,335	9	283	1,335	22	40	1,335	3	49
14	集計単位	最大医療費	医療費	医療費	医療費	医療費	医療費	医療費	医療費	医療費	医療費	医療費	医療費	医療費
15	保険者(地)	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病
16	同規模	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病
17	国	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病
18	集計単位	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病
19	保険者(地)	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病
20	同規模	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病
21	国	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病	慢性腎臓病

簡単！

CSV 内には下記の集計値を収載しているため、Excel で開いて、次のとおり集計します。

＜収載データ＞ C 列 75 行目＝健診受診者数

D 列 75 行目＝健診対象者数

BI 列 75 行目＝医科レセ総点数（健診受診者）

BL 列 75 行目＝医科レセ総点数（健診未受診者）

※同列の 76～78 行目にはそれぞれ県、同規模、国の値があるため、同様に集計して比較も可能です。



ふむふむ！



事業運営を効率的・効果的に展開していく

新年度事業計画・予算を原案どおり認定・可決

本会では、令和2年度2月通常総会を2月24日、高知市の高知城ホールにおいて32会員の出席により開催した。報告事項3件および審議事項32議案を厳正に審議し、原案どおり認定・可決した。

開会あいさつ 保険者業務の軽減・効率化の推進に努める



高知県国民健康保険団体連合会
理事長 楠瀬 耕作

開会のあいさつ
に立った楠瀬耕作理事長（須崎市長）は、本会においては厚生労働省の依頼を受け、住所地以外での新型コロナウイルスワクチン接種費用の支払代行業務を令和3年度に実施する予定していると報告した。
政府は2月9日の閣議で、地方公共団体情報システムの標準化に関する法律案を決定し、住民税をはじめ、国民年金、介護など、対象となる17分野の事務を政令で特定する方針を盛り込んでおり、令和7年度までにシステムの標準化やクラウド化を目指す考えが示されたことを受け、「ますますデジタル化が進められていく中で、令和3年3月からはオンライン資格確認等システムの運用を開始、10月からは本会におけるレセプト振替業務の開始が予定され、保険者業務の軽減につながっていくものと期待する」と述べた。
「基幹業務である審査業務の充実、医療費の適正化やKDBシステムの活用等による医療費分析など、保険者の皆さまの負託に応えられるよう、事業運営を効率的・効果的に展開する」とし、

保険者業務の軽減や効率化につながる業務の推進に一層努めていくとして、強い意気込みを語った。

全議案を原案どおり認定・可決

本会議では、議長に

常石博高・田野町長
を選出し、議事録署

名人に上村誠・北川村長と堀見和道・佐川町長を指名。報告事項3件と審議事項32議案を厳正に審議し、全議案を原案どおり認定・可決した。



田野町長
常石 博高 氏

高知県国民健康保険団体連合会役員

任期 自 令和2年3月6日 至 令和4年3月5日

役 名	氏 名	担当部会	現 職 名
理事長	楠瀬 耕作		須崎市長
副理事長	横山 幾夫		安芸市長
常務理事	渡辺 純正	総務部会	
理事	岡崎 誠也	//	高知市長
//	中平 正宏	業務部会	四万十市長
//	大石 雅夫	//	大豊町長
//	池田 牧子	総務部会	いの町長
//	岡林 弘毅	業務部会	高知県医師国保組合理事長
//	中尾 博憲	//	高知県国保地域医療推進協議会長
//	嶋崎 貴子	総務部会	高知県国保事務担当職員協議会高吾支部長
監事	竹崎 和伸		奈半利町長
//	田野 正利		三原村長

1 報告事項

報告第1号 会務報告書(令和2年7月1日、令和3年1月31日)
報告第2号 中間監査報告書
報告第3号 職員給与規則の部を改正する規則理事決処分報告

議案第18号 令和3年度後期高齢者医療事業関係業務特別会計(業務勘定)歳入歳出予算

2 審議事項

議案第1号 庁舎管理規則の部を改正する規則議案
議案第2号 診療報酬等審査支払特別会計経理規則の一部を改正する規則議案
議案第3号 令和2年度引当資産の取崩議案
議案第4号 令和2年度一般会計歳入歳出補正予算(第2号)
議案第5号 令和2年度診療報酬等審査支払特別会計(業務勘定)歳入歳出補正予算(第3号)
議案第6号 令和2年度後期高齢者医療事業関係業務特別会計(業務勘定)歳入歳出補正予算(第2号)
議案第7号 令和2年度介護保険事業関係業務特別会計(介護給付費等支払勘定)歳入歳出予算(第1号)
議案第8号 令和2年度介護保険事業関係業務特別会計(介護給付費等支払勘定)歳入歳出予算(第2号)
議案第9号 令和3年度一般会計歳入歳出予算
議案第10号 令和3年度一般会計歳入歳出補正予算(第1号)
議案第11号 令和3年度一般会計歳入歳出補正予算(第2号)
議案第12号 令和3年度診療報酬等審査支払特別会計(国民健康保険診療報酬等支払勘定)歳入歳出予算
議案第13号 令和3年度診療報酬等審査支払特別会計(業務勘定)歳入歳出予算
議案第14号 令和3年度診療報酬等審査支払特別会計(公費負担医療に関する診療報酬支払勘定)歳入歳出予算
議案第15号 令和3年度診療報酬等審査支払特別会計(国民健康保険診療報酬等支払勘定)歳入歳出予算
議案第16号 令和3年度診療報酬等審査支払特別会計(出産育児一時金に関する支払勘定)歳入歳出予算
議案第17号 特別会計(抗体検査等費用に関する支払勘定)歳入歳出予算

議案第20号 令和3年度後期高齢者医療事業関係業務特別会計(業務勘定)歳入歳出予算
議案第21号 令和3年度運営資金特別会計歳入歳出予算
議案第22号 令和3年度国民健康保険等損害賠償請求事務共同処理特別会計歳入歳出予算
議案第23号 令和3年度職員退職手当特別会計歳入歳出予算
議案第24号 令和3年度介護保険事業関係業務特別会計(業務勘定)歳入歳出予算
議案第25号 令和3年度介護保険事業関係業務特別会計(介護給付費等支払勘定)歳入歳出予算
議案第26号 令和3年度介護保険事業関係業務特別会計(公費負担医療等に関する報酬等支払勘定)歳入歳出予算
議案第27号 令和3年度障害者総合支援法関係業務等特別会計(業務勘定)歳入歳出予算
議案第28号 令和3年度障害者総合支援法関係業務等特別会計(障害介護給付費支払勘定)歳入歳出予算
議案第29号 令和3年度障害者総合支援法関係業務等特別会計(障害児給付費支払勘定)歳入歳出予算
議案第30号 令和3年度特定健康診査・特定保健指導等事業特別会計(業務勘定)歳入歳出予算
議案第31号 令和3年度特定健康診査・特定保健指導等事業特別会計(特定健康診査特定保健指導等費用支払勘定)歳入歳出予算
議案第32号 令和3年度特定健康診査・特定保健指導等事業特別会計(後期高齢者健診等費用支払勘定)歳入歳出予算

受賞おめでとうございます
国民健康保険事業功労者理事長表彰

国保事業の運営発展
に貢献してきた5人
がその荣誉に輝く

本会議前には、令和2年度国民健康保険事業功労者理事長表彰を行い、被表彰者に対し、楠瀬耕作理事長から表彰状と記念品が授与された。

〈被表彰者〉(敬称略)
国保直営診療施設職員
(在職20年以上)

演田 啓子
矢野 茜
中村 美翠

国保審査委員会委員
(在職10年以上)

南 晋

柔道整復師施術療養費審査
委員会委員(在職10年以上)

高橋 俊光



祝辞を述べる
高橋 俊光氏

事務局長就任のごあいさつ

保険者の共同体として、ニーズに応え、
信頼される国保連合会を目指す

皆さま方におかれましては、日ごろから本会の事業運営に格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

このたび、令和3年4月1日をもちまして高知県国民健康保険団体連合会事務局長を拝命いたしました。

もとより、微力ではございますが、国民健康保険事業等の健全な運営と発展のために誠心誠意、努力してまいりますので、何卒ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、国保を取り巻く情勢につきましては、平成30年4月に財政運営の責任の主体を都道府県とする、国保制度の大改革が行われ、国保の財政基盤強化が図られました。少子高齢化の急速な進展や、医療技術の高度化、被用者保険と比べて高齢者や低所得者の加入割合が多いという構造的な課題があり、国保財政は依然として厳しい状況にあります。

本会の基幹業務の一つであります診療報酬審査支払業務につきましては、国に設置されました「審査支払機能の在り方検討会」におきまして、審査業務の効率化や、審査基準の統化の推進など、支払基金、国保中央会、国保連合会の審



高知県国民健康保険
団体連合会 事務局長
いちかわ ひろし 市川 浩

また、医療費の適正化につきましては、令和2年度から始まる「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」につきまして、KDBシステムを活用した県下の統一的な医療費分析を行い、保険者の皆さまが進めるデータヘルスの推進を積極的に支援してまいります。

国保連合会は、保険者が共同目的達成のために設立された団体であり、事業・財政運営に当たりましては、保険者の皆さまのニーズに柔軟かつ的確に応えながら、信頼される国保連合会を目指してまいります。

Topics 1

地域住民の医療の確保充実を図る

第24回高知県地域医療診療施設等勤務医師修学資金貸与事業幹事会

2月5日、高知市の高知会館において「第24回高知県地域医療診療施設等勤務医師修学資金貸与事業幹事会」を開催し、Web参加も含め、委員等18人が出席した。

協議事項として、①令和3年度における高知県へき地診療施設等勤務医師及び高知県地域医療診療施設等勤務医師の後期研修実施②高知県へき地診療施設等勤務医師修学資金貸与事業（旧事業）医師及び高知県地域医療診療施設等勤務医師修学資金貸与事業医師の配置―等について協議を行った。



Topics 2

高知県保険者協議会

地域保険と職域保険の更なる連携強化を！

第30回高知県保険者協議会



楠瀬 耕作 会長

3月17日、高知県保険者協議会（事務局／高知県・高知県国保連合会）は、高知市の高知会館において「第30回高知県保険者協議会」を開催した。

開会にあたり、楠瀬耕作会長（高知県国保連合会理事長）は、「本協議会は医療保険者が職域の枠を越え、連携・協力し、地域の特性に応じた生活習慣病対策等、保健事業を効果的に実施していくために設置されている。少子高齢化が急速に進展する中、県民一人一人の健康寿命の延伸と適正な医療について、具体的な対応策を実施していくことが求められている」と述べ、保険者の垣根を越えた連携のさらなる強化を呼び掛けた。

楠瀬耕作会長が議長を務め、議事に入り、審議の結果、報告事項1件が原案どおり承認。続いて、令和3年度事業計画基本方針、令和3年度歳入歳出予算を審議の結果、原案どおり認定・可決した。

その後、情報提供として、高知県健康長寿政策課から「血管病対策について」、高知県医療政策課から「高知県の地域医療構想について」、高知県医事業務課から「医薬品の適正使用等の推進事業について」、高知県国民健康保険課から「医療適正化計画について」の情報提供が行われた。

また、国保連合会からは「特定健康診査・特定保健指導実施状況調べについて」の説明を行った。



Topics 3

一体的実施に向け、後期広域連合構成市町村への支援を行う

第7回高知県国保連合会保健事業支援・評価委員会

3月18日、本会会議室において、今年度、第7回目となる「令和2年度高知県国保連合会保健事業支援・評価委員会」を開催し、委員および構成市町村等22人が出席した。

後期高齢者医療広域連合構成市町村への支援として、千葉県松戸市における「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」の取り組み事例をDVD視聴により共有し、構成市町村相互の情報交換等および委員との質疑応答を行った。また、令和2年度最後となる本委員会では、令和2年度支援評価委員会の振り返り、令和3年度支援評価委員会の計画案・開催方法等について協議を行った。

情報提供として、高知県高齢者福祉課から、フレイル予防の取り組みについて、高知県後期高齢者医療広域連合からは、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施における県内の状況について、説明が行われた。



受賞おめでとうございます

Topics 4

令和2年度 全国国民健康保険 診療施設協議会会長表彰

地域医療への永年の貢献を称える「全国国民健康保険診療施設協議会会長表彰」を35年の長きにわたり、高知県の地域医療に貢献された、元仁淀川町国民健康保険大崎診療所所長の沖 勇一氏が受賞しました。



高知県国民健康保険事務担当職員協議会



調べないと気付けない！
健康のカギは特定健診

今年も特定健診をPRするグッズを作成しました。

高知県国民健康保険事務担当職員協議会では、第62回国保事業経営等研究専門部会を令和2年9月9日付け、書面にて開催し、国保被保険者に対する国保事業の啓発活動について協議しました。

平成20年度から始まった特定健康診査（特定健診）・特定保健指導は、保険者努力支援制度の評価指標でもあり、受診率向上に向けたさらなる取り組みが求められています。

令和2年度は「未受診者を対象とした特定健診受診勧奨」をテーマとして、市町村等にキャッチフレーズを募集しました。投票により、香美市健康介護支援課保健師 山中 清加氏に応募いただいた「調べないと気付けない！ 健康のカギは特定健診」（デザインを含む）に決定し、ウェットティッシュを作成。各市町村等へ配布しました。

NEW
FACE

国保連合会に新しい仲間が増えました。よろしくお願いいたします。

本会では、令和3年4月1日付で事務職員3人および保健師（嘱託職員）1人を採用しました。



さかもと ゆ き
坂本 由樹

担当課・係／保険者支援課 保健事業係

趣味／バスケットボールをすることです。

私の健康法／ランニングをして体を動かします。

座右の銘／初志貫徹

抱負／分からないことを分からないままにせず、一つ一つできることを増やして、早く戦力になれるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。



はま だ はや と
濱田 颯斗

担当課・係／審査課 第1係

趣味／スポーツ観戦です。特にサッカーとバスケットボールの試合を見るのが好きです。

私の健康法／スポーツをすることです。友人と集まってバスケットボールなどをしています。

座右の銘／質実剛健

抱負／まだまだ分からないことが多いのですが、1日でも早く戦力となれるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



うえむら せ な
植村 世菜

担当課・係／審査課 第3係

趣味／映画鑑賞です。映画館でポップコーンを食べながら映画を見るのが好きです。

私の健康法／睡眠をしっかりとることです。

座右の銘／石の上にも三年

抱負／たくさんご迷惑をおかけしてしまうと思いますが、少しでも早く職務に慣れることができるように精一杯努めますので、よろしくお願いいたします。



くすのせ
楠瀬 しのぶ

担当課・係／保険者支援課 保健事業係

趣味／映画鑑賞（好きなジャンル：ファンタジー、魔法、アドベンチャー、ミステリー系）、美術鑑賞

私の健康法／早朝のウォーキング（空や樹木を仰ぎながら歩く）

座右の銘／地道にコツコツ。失敗も楽しむ。

抱負／これまで39年市町村で働いてきました！ その経験を土台にして、心機一転・笑顔満載で頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

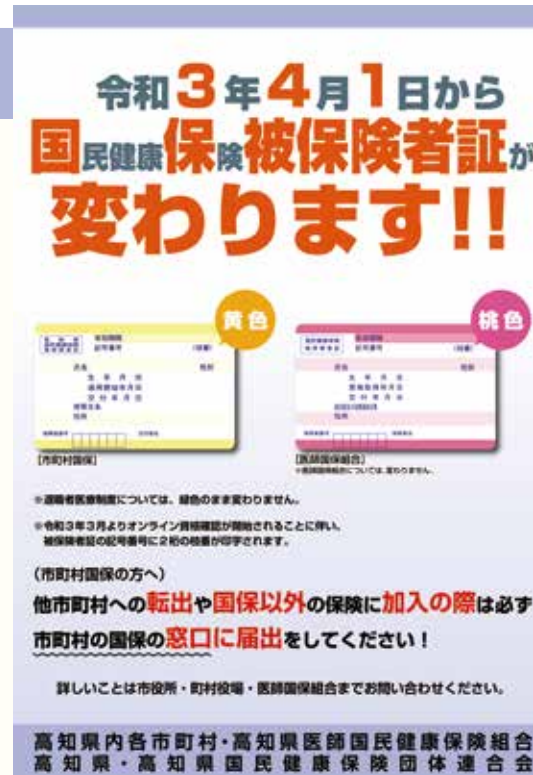
高知県国保連合会からのお知らせ

国保被保険者証更新 ポスターを作成しました

令和3年4月1日より
国民健康保険被保険者証が
次のように変更されています。

国民健康保険被保険者証（市町村国保）… 黄色

※医師国保組合被保険者証（桃色）は変更ありません。
※退職者医療制度については、緑色から変更ありません。
※令和3年3月よりオンライン資格確認が開始されることに伴い、被保険者証の記号番号に2桁の枝番が印字されます。



・ 国保連合会からのお知らせ ・

今後の会議の予定について （令和3年4月12日現在）

◎5月10日、11日

令和3年度国民健康保険及び後期高齢者医療事務担当職員新任者研修会（高知市）

「ヘルシーごはん—総集編—」を作成しました

この度、「ヘルシーごはん」コーナーの連載終了に伴い、レシピ集「ヘルシーごはん—総集編—」を作成しました。本会ホームページに掲載していますので、「今日は何を作ろうかな」というとき、ぜひご活用ください。

http://www.kochi-kokuhoren.or.jp//dayori/da_herushi.htm

健康測定機器「骨ウエーブ」を新規購入の予定です

現在、保険者の皆さまに貸し出しを行っている健康測定機器に、新たに骨健康度測定器「骨ウエーブ」を購入予定です。追って、製品詳細を紹介します（次号予定）。

室・課	係	主な事務
出 納 室	TEL 088-820-8419	●現金及び有価証券等の出納及び保管
総 務 課	庶務係 TEL 088-820-8401	●会務の総合調整 ●総会、理事会及び監事会 ●許可、届出、契約及び登記 ●規約、規則、細則及び規程 ●人事及び給与 ●国保制度の改善強化対策 ●その他の室・課に属さないこと
	財務係 TEL 088-820-8401	●財政計画及び予算の編成執行 ●負担金及び手数料その他徴収金の賦課徴収 ●物品の調達、貸借、検収及び不要品の売却 ●連合会補助金及び貸付金の申請及び請求 ●保険者に対する融資
保険者支援課	事業企画係 TEL 088-820-8415	●事業の企画 ●高知県国民健康保険事務担当職員協議会事務局 ●高知県国保地域医療推進協議会事務局 ●全国国民健康保険診療施設協議会に関すること ●用紙等の共同印刷、書籍等の購入斡旋 ●健康測定機器、健康教育教材の貸し出し ●医師確保対策 ●機関誌「TOSA 国保だより」の編集、発行 ●国保新聞 ●ホームページ
	保健事業係 TEL 088-820-8420	●保健事業 ●市町村保健師等研修事業 ●市町村保健衛生職員協議会保健師部会 ●高知県在宅保健活動者なでしこの会事務局 ●国保・後期高齢者ヘルスサポート事業 ●特定健康診査・特定保健指導 ●国保データベースシステム（K D B） ●高知県保険者協議会事務局

室・課	係	主な事務
審 査 課	第 1 係 TEL 088-820-8404	●歯科レセプトの審査支払事務 ●調剤レセプトの審査支払事務 ●訪問看護療養費の審査支払事務 ●診療報酬審査委員会歯科部会、調剤報酬審査委員会の運営 ●課の庶務
	第 2 係 TEL 088-820-8405	●医科レセプトの審査支払事務 ●診療報酬審査委員会の運営 【支払いに関する担当保険者】 市部、国保組合の保険者
	第 3 係 TEL 088-820-8406	●医科レセプトの審査支払事務 ●高点数レセプトの審査支払事務 ●診療報酬審査委員会専門部会の運営 【支払いに関する担当保険者】 安芸郡、土佐郡、長岡郡、吾川郡、高岡郡、幡多郡内の保険者
	第 4 係 TEL 088-820-8402	●保険者、保険医療機関等の再審査事務 ●診療報酬審査委員会再審査部会の運営 ●県外分診療報酬等全国決済事務
介護保険課	介護保険係 TEL 088-820-8409 (苦情) TEL 088-820-8410	●介護給付費及び介護予防・日常生活総合支援事業費の審査・支払、過誤調整、再審査、全国決済 ●介護サービス事業者等に対する調査、助言及び指導 ●介護保険者事務の共同処理 ●介護給付費等審査委員会 ●介護サービス苦情処理委員会 ●高額医療介護（介護予防）サービス費の支給計算 ●障害介護給付費等の審査支払及び過誤調整、全国決済 ●障害者総合支援市町村事務の共同処理 ●保険料（税）の年金からの特別徴収等における経由機関業務
業 務 課	業務係 TEL 088-820-8407	●保険者等の過誤調整 ●柔道整復施術療養費 ●療養費の審査 ●出産育児一時金、公費負担医療、福祉医療費等 ●支払事務、諸率、統計
	情報管理係 TEL 088-820-8403	●被保険者資格・給付に係る電子記録の管理等 ●情報ネットワークシステムの開発推進及び関連機器の維持管理 ●国保情報集約システム ●レセプト点検共同事業 ●保険者間調整 ●国保財政診断事業 ●保険料（税）適正算定マニュアル ●調査、情報収集及び分析・提供、保存
	求償係 TEL 088-820-8421	●第三者行為求償事務

令和3年度 国保連合会各室課事業年間予定表

室・課	出納室・総務課	審査課	介護保険課	業務課
4月	○会員・保健事業負担金賦課徴収		○介護保険担当者説明会（資料送付） ○障害者総合支援給付担当者説明会（資料送付）	○下半期2（3月分）求償事務手数料請求 ○国保医療費のお知らせ作成（4・6・8・10・12・2月） ○求償権確認調査および求償金滞納処理（毎月） ※求償金は収納月の翌月10日頃に該当保険者へ通知および送金します。
5月				○療給実績報告基礎資料作成 ○退職適用適正化実施に伴う年金受給権者情報作成
6月				
7月	○監事会・理事会・通常総会			○国民健康保険高齢受給者証作成 ○保険者等事務電子計算共同処理運営委員会
8月				○年間無受診世帯および被保険者名簿作成
9月			○ケアプラン分析研修会 ○保険料の年金からの特別徴収業務手数料賦課徴収（前期分）	
10月				○上半期求償事務手数料請求 ○9月末現在年齢階層別・男女別被保険者数調べ（年齢階層調べ）作成
11月	○国保制度改善強化全国大会（東京都）			○第三者行為求償事務研修会（求償アドバイザーによる実務研修（集合形式）） ○退職適用適正化実施に伴う年金受給権者情報作成
12月	○理事会	○レセプト点検・調査事務研修会		
1月				○療給実績報告基礎資料（基礎表Y）作成
2月	○国保連合会表彰 ○監事会・理事会・通常総会 ○退職者医療共同事業負担金調定		○保険料の年金からの特別徴収業務手数料賦課徴収（後期分） ○保険者設置機器等保守経費負担金請求	○保険者等事務電子計算共同処理運営委員会
3月			○介護予防ケアマネジメントに係る財政調整 ○介護給付費等通知圧着用紙代請求	○下半期求償事務手数料請求 ○疾病分類等冊子発行 ○被保険者証等作成（国保・退職）

保険者支援課	国保事務担当職員協議会	国保地域医療推進協議会
○地域医療推進共同事業負担金賦課徴収 ○共同斡旋物等代金請求（随時） ○国保新聞に関する業務（毎月） ○TOSA 国保だより 346号発行	○各支部総会（支部単位で開催）	○監事会
○特定健診等国庫負担（補助）金の実績報告に関する説明会・特定健診等事務担当職員新任者研修会 ○国保事務担当職員新任者研修会	○監事会・理事会・総会	○理事会・総会
○全国国民健康保険診療施設協議会会費賦課徴収 ○高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施におけるセミナー ○保険者協議会実務担当者部会（随時）		
○特定健診・特定保健指導手数料請求 ○ヘルスアップ推進員研修会 ○広報委員会 ○TOSA 国保だより 347号発行	○支部長会	○国保診療施設四国ブロック会研修会（香川県）
○高知県在宅保健活動者なでしこの会総会	○各支部研修会（支部単位で開催） ○国保事業経営等研究専門部会	○部会長・副部会長会
○高知県国保事務担当職員研修会		
○高知県在宅保健活動者なでしこの会「なでしこだより」第41号発行 ○TOSA 国保だより 348号発行		○全国国保地域医療学会（岡山県） ○部会長・副部会長会
○国保被保険者健康づくり推進月間 ○国保運営協議会委員研修会		
○新年度使用の共同印刷物受注	○理事会	
○特定健診・特定保健指導集合契約に関する説明会 ○保険者協議会研修会 ○広報委員会 ○TOSA 国保だより 349号発行		
○被保険者証更新ポスター配布	○支部長会 ○国保事業経営等研究専門部会	○高知県国保地域医療学会 ○部会長・副部会長会
○高知県在宅保健活動者なでしこの会「なでしこだより」第42号発行		

※日程調整中 ○国保保健賞表彰 ○保健事業支援・評価委員会 ○医療費分析研修会



- 編集後記では、(筆者の)身近な自然シリーズを連載中です。前回のアボカドに続き、我が家のNEW FACE 青森県産の王林(種から発芽)をご紹介するつもりでしたが、雪で葉が全て落ちてしまい、寂しい見た目となっているため、新芽が育つまで持ち越しです。つきましては、今回は「筆者のお手軽・健康法」をご紹介します。1カ月ほど前から、感染対策を行いながら有志による卓球に動んでいます。100円ショップのラケットとネットを用いた緩いルールですが、ピンポン玉の動きに集中し、とても良い気分転換になっています。
- 広報の担当となり、4年目の春を迎えました。昨年度はコロナ禍で、会議の中止が相次ぐなど、例年とは大きく異なる一年でしたが、各コーナーへは、さまざまな取り組み事例等を寄稿していただき、ありがとうございます。連載コーナー「おらんくの保健事業」は誌面の見直しにより、今号で終了いたします。長い間ありがとうございました。引き続き読みやすい誌面作りに向け、取り組んでまいりますので、今年度もなにとぞよろしくお願いいたします。(高)

346号の取材・寄稿にご協力くださいました皆さん
ありがとうございました。



TOSA 国保だより

2021年4月発行 346号

■発行者
高知県国民健康保険団体連合会
高知市丸ノ内2丁目6-5 TEL 088-820-8415
<http://www.kochi-kokuhoren.or.jp>
E-mail koho@kochi-kokuhoren.or.jp

■印刷
株式会社リーブル 高知市神田2126-1
TEL 088-837-1250 <https://www.livre.jp>

次号予告

豊かな自然と笑顔あふれる
のどかな村

「馬路村」

今回は馬路村を訪ね、これからの
まちづくりについて、山崎出村長に
お話を伺います

TOSA 国保だより 347号
7月下旬発行予定

国保連合会事務局組織図

(令和3年4月1日現在)

